

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000550
法人名	社会福祉法人 朝日ぶなの木会
事業所名	グループホーム かたくり荘
訪問調査日	平成 20 年 2 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	673000550
法人名	社会福祉法人 朝日ぶなの木会
事業所名	グループホーム かたくり荘
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市熊出字東村157番地の2 (電話) 0235-53-3900

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年4月1日

【情報提供票より】(平成19年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9.1 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/改築
建物構造	1階木造	造り
	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,400 円	その他の経費(月額)	光熱水費1日200円、他実費
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真柄医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者と職員は、地元ならではの「山菜料理」「笹巻き作り」「コンニャク作り」など、四季折々の食材を取り入れた楽しい時間を過ごしており、利用者や職員がホームに出入りする時には「ただいま」「お帰り」「行ってきます」などの言葉やあいさつを交わす姿が見られる、家庭的な雰囲気のホームです。
また、運営法人及びホームは「職員の育成」と「地域への還元」にも力を入れており、「出前講座」による認知症ケアの啓蒙活動等が行われています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	トイレ使用中の姿が透けて見えてしまうため、羞恥心やプライバシーにも配慮して、より安心してトイレを使用できる配慮と工夫が期待されたが、家族会や運営推進会議で検討した結果、安全面からも現状のままが良いとの結論に至ったため、職員の配慮による支援が引き続き行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員で確認しながら問題点の整理、会議での検討、改善への活用に努めており、また、外部評価結果については、家族会、運営推進会議、職員への報告・検討が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所の現況や活動の報告、利用者の状況報告、ヒヤリハット報告などをテーマにした運営推進会議が2ヶ月ごとに開催されており、利用者と同じ夕食を会議のメンバーにも食べてもらい、献立についての感想や意見を聞く取り組みも行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情窓口や苦情相談委員会が設置されており、家族の面会時や電話、家族交流会、運営推進会議、夏祭りなどの行事の際にも、意見や苦情がないかを家族に問いかけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の敬老会出席、地区駅伝大会の応援、ゴミや空き缶ひろい、毎月地域に出向いて行う啓蒙活動、ご詠歌・演芸・保育園児のボランティア受け入れなど、積極的に地元の人々と交流する機会を設けている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく笑顔で楽しい家庭を」「ゆったりとした中で望みがかなえられるように」「できることは自分でできるよう見守り支援する」という内容を、事業所独自の理念としてホーム内に掲げている。	○	地域密着型サービスとして果たすべき役割を反映した内容についても、ホーム内に掲げる理念の中に加えていく取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念等を玄関や事務室に掲示し、集会、会議、研修の際に職員全員で唱和して共有に努めている。また、勤務表にも明記しており、各々が常に確認し合いながらその実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会出席、地区駅伝大会の応援、ゴミや空き缶ひろい、毎月地域に出向いて行う啓蒙活動、ご詠歌・演芸・保育園児のボランティア受け入れなど、積極的に地元の人々と交流する機会を設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で確認しながら問題点の整理、会議での検討、改善への活用に努めており、また、外部評価結果については、家族会、運営推進会議、職員への報告・検討が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現況や活動の報告、利用者の状況報告、ヒヤリハット報告などをテーマにした運営推進会議が2ヶ月ごとに開催されており、利用者と同じ夕食を会議のメンバーにも食べてもらい、献立についての感想や意見を聞く取り組みも行われている。		

山形県 グループホームかたくり荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回開催される地域ケア会議等の機会をとらえて、利用者の健康面での相談を行ったり、保健師の講話や担当者との茶話会の計画について話しをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアプラン、生活の様子、健康状態などを書いたお知らせを毎月送付し、随時、電話や面会時にも報告している。金銭出納は毎月発行している「ホーム便り」と一緒に送付し、家族交流会や面会時に押印してもらっている。また、職員異動時はホーム便りで紹介されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や苦情相談委員会が設置されており、家族の面会時や電話、家族交流会、運営推進会議、夏祭りなどの行事の際にも、意見や苦情がないかを家族に聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動人数は必要最小限にとどめ、利用者へのダメージ防止に努めており、異動を利用者にも説明したうえで、利用者と一緒に送別会も開かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	栄養関係の研修や認知症ケアの研修が行われており、研修内容は報告、回覧されている。また、職員への指導体制もできており、職員育成のためにマンツーマンでの関わりに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会や鶴岡市グループホーム部会での研修会や会議、交流会、交換研修に参加し、医療と介護の連携、ターミナルなどの学びを深めており、実際にターミナルケアにつなげた事例もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の下ごしらえ、農作物・庭木・草花の育て方、収穫、笹巻き作り、地域の風習を教わったりしている。また、利用者の看取りについても、職員、家族、利用者、思いや哀しみを共にすることができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や様子を観察しながら、希望や意向の把握に努めており、家族との関係も考慮しながら可能な範囲で対応されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は、本人や家族の意向・希望を聞いた上で、職員と家族が話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月ごとに、また、緊急時や状態の変化があった場合は、ケース会議を開いて職員と家族が話し合いながら、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医となっており、 受診は月1回程度、家族同行で通院しているが、家族 が困難な場合には、職員が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	「看取りに関する指針」に基づき、看護師やかかりつけ 医とも連携を図りながら、利用者や家族が最後まで安 心して暮らすことのできる体制づくりがなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	職員全員が倫理規程研修を受講し、プライバシー保護、利 用者の名前の呼び方や対応の工夫に努めている。また、個 人記録は、他者の目にふれない場所で記載することや事務 室内に保管することなど、個人情報の取り扱いにも注意して いる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日の買い物、ドライブ、その人に合わせた 起床・就寝・食事時間の配慮など、利用者一人ひとりの 希望や生活のペースに沿った柔軟な対応に努めてい る。		

山形県 グループホームかたくり荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望を聞きながら、1週間ごとに法人の栄養士からアドバイスを受けて立てており、買い物や準備、後片付けは、職員と一緒に行うようにしている。また、利用者と職員と一緒に畑の野菜を収穫したり、山菜を採ってきては調理に取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日希望する時間帯に入浴することができるが、午後に入浴してもらうことが多い。また、かゆみの訴えが強い場合にはホームのすぐそばにある温泉施設も利用してもらい、利用者からも好評を得ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、畑仕事、笹巻き作り、山菜採り、行事の際の挨拶など、利用者の経験や知恵を発揮できる場面をつくっている。また、買い物、ラジオ体操、ご詠歌、ドライブなど、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の希望に沿って、散歩、買い物、畑仕事、山菜採り、ドライブなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が、鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は日中鍵をかけず、チャイムが鳴るように工夫されている。また、外出する利用者には「行ってらっしゃい」と声をかけて送り出し、後ろから見守る対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で消防署や地域協力員の協力を得ながら、夜間に総合訓練を実施している。また、事業所独自にも消防計画があり、夜間を想定した訓練も予定されている。		

山形県 グループホームかたくり荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取量をチェックし、把握している。また、旬の食材や好物を多く取り入れたり、個々に合った食べやすい形態で提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のスペースもあるリビング兼食堂は、ゆったりと広く、高い天窓からは自然光と外気を十分に取り入れることができる。また、季節ごとの行事の写真や飾り物、日めくりカレンダーを飾り、利用者がいつでも読めるよう新聞も置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口の個人ごとの「のれん」、仏壇、写真、映画俳優のポスター、小物などを飾る、床に畳やジュータンを敷くなど、利用者に合わせて居室になっている。		